

大規模稲作にイタリア野菜を組み入れた新たな周年農業の確立

～“新規就農者のリーダー”から“地域を代表するスーパertopランナー”への飛躍～

牧野 聡・留美子（河北町）

1 受賞者の概要

牧野聡氏は、新規就農者グループのリーダーとして活躍する一方、水田経営の規模拡大と、複合経営による周年農業に取り組んできた。

地域の仲間とともに栽培技術の開発に取り組んだイタリア野菜については、主力の品目「トレヴィーゾ」を含めて約20品目のマニュアル化を進め、自身の周年農業を実現するとともに、「企業組合 かほくイタリア野菜研究会」（以下「イタリア野菜研究会」）を設立し、その代表として会員生産者の経営安定と地域の活性化に寄与している。

留美子氏は、聡氏との結婚・出産をきっかけに就農した。直筆による「農園だより」を定期的に発行し、農園の情報に加え農業に取り組む姿勢や情熱を伝えることで顧客の定着に繋げている。また、農産加工や販売管理・顧客管理業務に加え、雇用管理や職場環境改善等にも取り組み、経営を下支えしている。



2 特色ある活動

(1) 稲作経営の経営規模拡大と高品質化

水稻栽培においては、就農以来、基本技術の徹底による高品質化を心がけ、「つや姫マイスター」として地域の米づくりをけん引するとともに、「山形県優良酒米コンテスト」において4年連続計5回県知事賞を受賞する等の成果を収めている。こうした実績により地域からの信頼が高まることで水田の借地面積の増加に繋がっており、ICT技術も取り入れ効率化を図ることで、町内屈指の大規模経営に取り組んでいる。

(2) イタリア野菜導入による周年農業の実現と、地域への波及

周年農業の実現に向けて冬期間の経営の柱としてイタリア野菜に注目し、約7年間にわたる試行錯誤のすえ、主力品目「トレヴィーゾ」を含め約20品目の栽培マニュアルを作成している。自身の周年農業の実現のみならず、イタリア野菜研究会会員の栽培技術と所得の向上に繋がったほか、農商工連携による新商品開発を含め、地域の発信力強化に貢献している。

(3) 若手農業者のけん引役として活躍

聡氏は、「山形県新規就農者ネットワーク」等、新規就農者組織の代表を長年務め、会員間の交流と情報共有等を推進してきた。また、県青年農業士の認定を受け、地域の若手農業者を技術面、精神面からけん引役として活躍している。

3 今後の発展方向

イタリア野菜の栽培が定着してきたことから、周年農業、周年雇用が実現しつつあり、今後一層の経営安定を図るため、法人化に向けた準備を進めている。

また、イタリア野菜研究会においては、栽培マニュアルを見直すなど、生産基盤を強固にするとともに、一層の販路拡大を図る。また、県版GAPの認証取得を進めながら、イタリア野菜による地域振興と若手農業者支援を並行して進めていく。